

<試験の区分（物理）>

福岡管区気象台 下関地方気象台 令和4年度採用



【1日の仕事の流れ】

8：30 出勤・引継ぎ

出勤時に観測機器の状態の確認をします。8時30分からは、昨夜から今朝までの気象状況や今後の予想について引継ぎを受けます。

9：10 打ち合わせ

その日の予定や防災対応について、気象台内全体で打ち合わせを行います。

9：30 観測データの確認

適切に観測が行えているか観測データを確認します。誤観測が疑われる場合には、観測機器に異常がないか確認し、必要に応じてデータ修正や障害対応を実施します。また、市町や報道機関、一般の方からの天気に関する問合せの対応を行います。

12：00 昼休み

12時から13時までは昼休みです。

13：00 観測データの確認

午前中と同様に観測データの確認や問い合わせの対応を行います。観測機器の点検の計画や準備、出前講座や防災イベントの準備などの業務も行います。

15：00 打ち合わせ

実況（現在の気象状況）や今後の予想について気象台内で共有し、明日から明後日までの天気について検討します。

17：15 退庁

宿直者（または夜勤者）に引継ぎを行い退庁します。

① 現在はどのような仕事をされていますか？

主に気象観測機器の保守管理や観測データの品質管理を行っています。地方気象台では、風向風速、気温、湿度、降水量、視程などを観測しています。これらのデータは、日々の天気予報や警報・注意報などの防災情報の発表、産業や研究などに利用されており、自然災害の軽減、交通安全の確保、産業の発展などに役立てられます。気象状況を適切に観測し、高質な観測データを提供できるように、定期点検や露場（観測を実施している場所）の環境整備、観測データの確認などを行っています。

② 大学で専攻したことがどのように生かされていますか？

大学では地球科学を専攻し、気象や地震、火山について学んでいました。気象については大気力学が主で天気図の見方や気象現象についての講義はありませんでしたが、基礎となる力学の知識は現象の理解に大きく役立っています。

③ どのような仕事が印象に残っていますか？

やりがいを感じたのは、入庁1年目の大雪対応です。夜勤に入り、警報・気象情報発表の補助を行いました。帰宅時に電車に乗ると、多くの人が大雪・暴風雪に備えた格好をしていて、自分たちの危機感がしっかりと伝わっていると感じました。国民の安全の維持に寄与できていると実感することができました。

④ 国家公務員志望者へのメッセージをお願いします！

国家公務員の仕事は、国民が安心して幸せに暮らせる社会を作ることです。気象庁は特に「防災」という分野で貢献します。責務は重大ですが、その分やりがいを感じられます。

専門的な知識がなくても大丈夫です。みなさんと同じ職場で働ける日を楽しみにしています。